

(日曜通信から上のように改題しました。ジジは時事、爺の意味もあれば黒猫ジジの意味もあります)



--- 高速道路通行料 ---

4月1日のニュースによると鳩山政権の高速道路新料金体系では、休日平日とも乗用車は上限2千円、トラックなど大型車は5千円となる。これでは旅客も貨物も鉄道や船から自動車に移ることになる。人間一人を1km運ぶ時、乗用車は168gの二酸化炭素を排出するが、鉄道なら19g。貨物1トンを1km運ぶ場合、自家用トラックでは980g排出するが、鉄道は僅か22g、船は38gである。(交通安全環境研究所の日岐喜治氏による[http://www.ntsel.go.jp/kouenkai/h21/21-02.pdf])地球温暖化防止の為に二酸化炭素の排出を減らさなければならないのに、これでは逆行する。貨物輸送は鉄道や船に移すように、帰省などでの交通は鉄道など公共交通に移すような政策をとるべきだと思いますが、皆さんはいかがでしょうか？



「あれが大栈橋」

2010年アンデパン  
ダン展出品作品

新港埠頭は1899年に埋め立て工事が開始され、1911年から1913年に保税倉庫が建設されました。その倉庫が今「赤レンガ倉庫」と呼ばれる所です。その赤レンガ倉庫の前で描いたものです。右には「大栈橋」、中央に「ベイブリッジ」、左に巡視船の「新港埠頭」が見えます。

大栈橋は1894年に完成した国際客船ターミナルですが、2002年に鯨の背中を模したような現在の形にリニューアルされました。旅客船の「飛鳥II」などが、しばしば訪れます。この絵を描いたときには、海上保安庁の海洋調査船が停泊していました。ベイブリッジは2階建てです。上は首都高速道路横浜線、下は一般道路です。絵で左側の橋脚には展望台があり、今は、土日祝日だけ開いています。左の新港埠頭は大きな巡視船の基地です。左の巡視船は六千トンという大きな船で、一時は海賊対策でマラッカ海峡辺りまで行ったようです。

大栈橋は1894年に完成した国際客船ターミナルですが、2002年に鯨の背中を模したような現在の形にリニューアルされました。旅客船の「飛鳥II」などが、しばしば訪れます。この絵を描いたときには、海上保安庁の海洋調査船が停泊していました。ベイブリッジは2階建てです。上は首都高速道路横浜線、下は一般道路です。絵で左側の橋脚には展望台があり、今は、土日祝日だけ開いています。左の新港埠頭は大きな巡視船の基地です。左の巡視船は六千トンという大きな船で、一時は海賊対策でマラッカ海峡辺りまで行ったようです。

なお、この新港埠頭では1942年にドイツの仮装巡洋艦「トール」号が、隣に停泊していたタンカーの爆発の巻き添えで沈没しました。2002年に偶々図書館で見つけた「横浜港ドイツ軍艦燃ゆ」(石川美邦著)と云う本にその事が書いてありました。私の名前と軍艦の名前が似ていて印象的でした。